

令和4年度 第2回校則検討委員会(議事録)

【日時】 令和5年2月8日(水) 午後3時30分～午後4時30分
【会場】 地歴教室
【参加者】 生徒代表6人, 保護者代表3人, 職員代表8人 計17人
※司会: 教頭

1 はじめに(校長から)

生徒指導提要が12年ぶりに改訂された。ここには、「理不尽で合理的な説明のできない校則はみんなで考えてください。」とある。

「そもそもこの校則は何のためにあるのか？」ここを考えてほしい。「本質を見抜く」、そのためには、「なぜ」を突き詰めてほしい。

前は生徒側と職員側で話をしてきたが、今回は世代や立場の固定概念に縛られることなく意見を出しやすくするため、「肯定派」、「否定派」の役割をくじ引きで決めて、意見交換をしてもらいたい。立場を変えれば見えてくる。自分の気持ちや思いを伝える対話の場にしてほしい。

－生徒指導提要説明会のニュース動画の視聴－

2 協議内容

肯定派, 否定派に分かれての意見交換(くじ引きによる)

議題: 髪型(ツブロック)について

【肯定派】

- ・ ツブロックが他の人に害を与えたり、不快な気持ちにさせたりすることはないと思うので、頭ごなしに否定されるというのは、ちょっと理不尽なのかなと思う。
- ・ ツブロックだからといって、人に迷惑をかけている訳ではない。
- ・ 涼しく、清潔感があるので良い
- ・ 運動するのにも適している。
- ・ 良い点もあるが、極端な髪型になりやすいため、基準(線引き)が必要。
- ・ 会社によっては禁止しているところもあるが、学校という環境が多様化している。社会の状況に対応することも必要。

【否定派】

- ・ 極端な髪型になり得る。認めない方が良い。
- ・ 良いか、悪いかを決めるのは他人。学校は進路保障の観点から生徒が不利益にならないように、社会からどのように見られるかを考えた指導が求められる。社会の状況に応じて変化することも大切であるが…。
- ・ 判断するのは周囲であるので、就職や進学で不利になる。ツブロックは、社会では少しずつ許容されているが、学校ではまだ浸透していない。
- ・ 線引き(基準)が難しい。生徒の個性から判断のされ方(怖い、やんちゃ等)が異なる。
- ・ エスカレートしたらどんどん奇抜な髪型になる。ルールを考えなくてはならない。
- ・ 個人差が出やすい。
- ・ 人の印象は第一印象が7割を占めるという。ツブロックはやんちゃなイメージ。人に悪い印象を与えるのでやめた方が良い。

(司会) 皆さんの発言から、両者から「清潔感」というキーワードが共通して出てきましたが、これについて何かご意見をお願いします。

(生徒・否) 他人に迷惑をかけていないというが、誰が判断するのか。自分はそう思っている、他人は違う判断をするかもしれない。

(保護者・肯) どこで誰が判断するのか。難しい。その判断の基準が、大人が目線であったり、先生方の目線なのではないか。

(生徒・否) ツーブロックもいろんな形があるので、一概に清潔感があると言い切れないのでは。

(生徒・肯) ツーブロックがやんちゃみtainなイメージがあるというが、スポーツ刈りでもミリ数や個人によってやんちゃなイメージになる。ツーブロックだけ差別化するのはいかがなものか。

(保護者・肯) ツーブロックは良いと思っていたが、いろんな問題を含んでいることに気づかされた。

(職員・肯) 大人から見るライン(基準)と生徒から見るラインをお互い理解し、良識的な判断ができればよいのでは。

(職員・肯) ツーブロック問題の対象は男子だけなのか。女子は?男子でも髪を伸ばしたい生徒もいるかも。男女差のことも考えていかななくては。いろいろな考えの人が交じり合う時代、髪型の統一は難しい。

(保護者・肯) 男女の差をそもそも議論しないといけない。

(司会) 校則には男子、女子で示されている項目もある。ジェンダーや性的マイノリティの観点から考えていく必要がある。否定派から出された「進路保障」の問題について、学校はどのように考えていけばよいか。髪型で就職に影響が出るような日本の社会に問題があるのか。また、現在の中学生に対しても同じような問題があるか。ご意見をお願いします。

(職員・否) 以前は、会社からは袖のボタンをきちんと留めるなど、身なりを整え、ルールをきちんと守る人材が求められていた。工場の機械などに衣服が巻き込まれないようにするため、生命の安全を守るために必要なことであった。ただ、現在の社会状況から、以前の規則をそのまま用いるのが良いかどうか、検討が必要である。

(司会) 大きく変わる社会に、生徒たちにはどのような資質が必要とされるのか。皆さんのご意見をお願いします。

(生徒・肯) 個人の考えが尊重される世の中になってほしい。適応するときには適応すべきことを守ることができるような環境を学校が作ってほしい。

(職員・否) 髪型だけでなく、様々なことに対応していかなければならない。今の時代に合わせて考える。それを全員で考えることが大切。

(司会) みんなでルールを決めて納得解が見出されれば、この髪型については難しい問題でないのではないか。

(保護者・肯) 中学3年の娘がいるが、「どこどこの学校は校則が厳しい。」などの噂を聞いたりする。

(職員・肯) 不易と流行を考えて校則を検討する。ライン(基準)の線引きができるのでは?

(司会) よりよい学校づくり、社会づくりに向けて、本日の会で校則の見直しに向けて大きなヒントが得られたのではないか。今回の校則の見直しを通して、生徒の皆さんが主体的にルールを作り、守っていく学校内民主主義の経験は、将来主権者としての在り方にきっと役に立つと思います。

3 校長から

「校則は法律なのか?」「そうではない。」では、「校則はなぜあるのか?」そもそも「高校は何のためにあるのか?」

学校は生徒の学力を付けるために存在している。「校則は法律ではないから、自由にしてい。」そんなことを言う人もいる。「何のために校則があるのか。」みんな考えていくことが大切。

4 諸連絡

第3回校則検討委員会

令和5年2月20日(月) 午後3時30分~午後4時30分